

JP-A No. 06-233044

[0026] In an example shown in Fig. 3, determination is made as to whether the received documents should be immediately printed or the receiving monitor

5 report should be output, depending on the number of sheets of received documents.

[0027] In Fig. 3, received image information is accumulated in an image information memory 2 at step S1. Upon accumulating this document, a document

10 number used for identifying the document is stored as managing information. At step S2, determination is made as to whether or not the receiving process has been completed. Upon completion of the receiving process, the sequence proceeds to step S3 where

15 determination is made as to whether or not the number of received documents is a threshold value or more.

This threshold value for the number of documents, which can be preliminarily set as system data, is set to an appropriate number based upon normal receiving  
20 conditions. In this case, the threshold value of the number of documents is set to 10.

[0028] When the number of received documents exceeds the threshold value, that is, 10 sheets, the sequence proceeds to step S4 to form a receiving monitor

25 report and this report is output through a printing section 11 (step S5).

[0029] This receiving monitor report includes a

# BEST AVAILABLE COPY

- 2 -

document number, communication information such as a partner station name, the date and time of receipt and communication results, and a portion of image information of the received documents that enables  
5 easy distinction of the contents of the received documents. This one portion of image information to be placed on the receiving monitor report may be prepared as reduced information of a specific page (for example, the first page) of the received  
10 documents, or information of one portion of a specific page. Here, the information may be reduced information of a plurality of pages, as will be described later.

[0030] Moreover, the document number may be prepared  
15 as information that can be recognized by people or as information that can be read by a machine, such as bar codes.

[0031] At step S3, when it is determined that the number of the received documents is less than the  
20 threshold value, the sequence proceeds to step S6 so that the received documents are printed and output.

10/098.545  
GAI.2681

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-233044

(43)公開日 平成6年(1994)8月19日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
H04N 1/00	106 B	7046-5C		
1/21		2109-5C		

審査請求 未請求 請求項の数6 FD (全13頁)

(21)出願番号 特願平5-37375

(22)出願日 平成5年(1993)2月3日

(71)出願人 000005496

富士ゼロックス株式会社

東京都港区赤坂三丁目3番5号

(72)発明者 田中 伊佐夫

埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士ゼロックス株式会社内

(72)発明者 重枝 信之

埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士ゼロックス株式会社内

(72)発明者 菅原 隆

埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士ゼロックス株式会社内

(74)代理人 弁理士 平木 道人 (外1名)

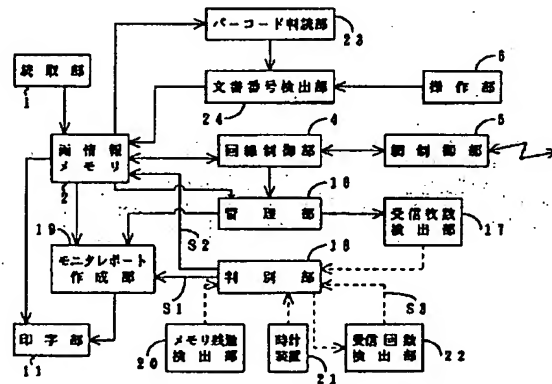
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 ファクシミリ装置

(57)【要約】

【目的】 受信文書の出力要否を判断するための受信モニターレポートを、受信枚数の多少に基づいて出力できるようにする。

【構成】 管理部16には画情報メモリ2に蓄積された受信文書の管理情報が格納される。判別部18は、受信枚数検出部17で検出された受信枚数情報を枚数しきい値と比較し、その結果によって受信モニターレポートの作成指示信号s1または受信文書の印字指示信号s2を出力する。モニターレポート作成部19は、前記信号s1に応答して画情報メモリ2から画情報の一部または全部を読出し、管理部16から読出された通信結果情報や文書番号などと合成して印字部11に出力する。前記判別部18は、受信枚数のほかメモリ残量や現在時刻に基づいて受信文書を出力させるか、受信モニターレポートを出力させるかの判別を行うようにもできる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 受信した画情報を蓄積する画情報メモリおよび印字手段を有するファクシミリ装置において、受信文書の枚数がしきい値以上か否かを判断する受信枚数検出手段と、

受信文書の枚数が前記しきい値以上のときに、受信モニターレポートの作成指令を出力し、受信文書の枚数が前記しきい値以下のときには受信文書の印字指令を出力する判別手段と、

前記受信モニターレポートの作成指令にตอบสนองして受信画情報の少なくとも一部が含まれた受信モニターレポートを作成するモニターレポート作成手段とを具備し、

前記印字手段は、モニターレポート作成手段から供給される受信モニターレポートデータおよび前記印字指令にตอบสนองして画情報メモリから供給される受信文書を出力するように構成されたことを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項2】 前記判別手段が、受信文書の枚数が前記しきい値以上のときであって、かつその時の画情報メモリのメモリ残量が残量しきい値より多い場合に受信モニターレポートの作成指令を出力する一方で、メモリ残量が残量しきい値より少ない場合には受信文書の印字指令を出力するように構成されていることを特徴とする請求項1記載のファクシミリ装置。

【請求項3】 前記判別手段が、受信文書が前記しきい値以上のときであって、かつ時間帯が通信量が多いとしてあらかじめ設定されている時間帯以外では受信モニターレポートの作成指令を出力する一方で、前記時間帯では受信文書の印字指令を出力するように構成されていることを特徴とする請求項1記載のファクシミリ装置。

【請求項4】 前記受信モニターレポートに、少なくとも受信文書の識別情報が含まれたバーコードが記録されていることを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載のファクシミリ装置。

【請求項5】 前記受信モニターレポートの作成指令数を計数する計数手段を具備し、

前記判別手段が、該作成指令数が予定数に達したときに該作成指令に対応する受信文書の受信モニターレポート一括作成指令を出力するように構成されていることを特徴とする請求項1～4のいずれかに記載のファクシミリ装置。

【請求項6】 受信モニターレポート上のバーコードに含まれる受信文書の識別情報および操作手段から入力された受信文書の識別情報のいずれか一方を検出する手段と、

検出された識別情報に対応する受信文書を画情報メモリから読出して印字手段に供給する印字指示手段とを具備したことを特徴とする請求項4又は5記載のファクシミリ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はファクシミリ装置に関するものであり、特に、画情報メモリに蓄積された受信文書のうち、必要な文書だけを印字出力することができるファクシミリ装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 ファクシミリ装置で受信した文書の中には、ダイレクトメールのように送信側の都合だけで送信されてきた文書や、間違いで送信されてくる文書が含まれていることがある。従来は、そのような文書であっても、他の必要な文書と同様に印字されていた。このような不必要な文書を印字することなく処分できれば、記録紙のむだだとか、電気料金のむだ等を減らすことができる。

【0003】 このような状況に対して、蓄積情報を表示手段に表示し、この表示に基づいて必要な文書か否かをオペレータが判断し、選択的に受信文書を印字できるようにしたファクシミリ装置が提案されている（特開平2-114763号公報）。

【0004】 また、文書を受信したときに受信モニターレポートを印字出力し、その受信モニターレポートから文書の内容を判断して、必要な場合にはこの受信モニターレポートを読取らせ、この受信モニターレポートの指示に基づいて受信文書を印字出力するようにした通信装置が提案されている（特開平1-298864号公報）。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 上記従来の装置には、次のような問題点があった。上記従来のファクシミリ装置では、表示手段の画面を見て、受信文書の内容を判断するようになっている。しかしながらコスト面からあまり大きい画面を準備できないので、小さい画面内でスクロール操作して文書の内容を確認しなければならないという不便さがあり、特に受信文書が多い場合には非常に手間がかかるという問題点があった。

【0006】 また、上記従来の通信装置では、受信文書の判断を容易にするための画情報が受信モニターレポートに含まれていないので、受信文書の判断がつきにくいという問題点があった。さらに、受信文書の枚数が少ない場合でも無条件に受信モニターレポートが1枚印字されるため、記録紙の節約の面からは受信文書をそのまま印字した方がよい場合がある。例えば受信文書が1枚の場合、受信モニターレポートと受信文書とを合わせて2枚の印字がなされることになる。

【0007】 このように、前記通信装置は、パスワードを用いて秘密文書を出力する場合には都合がよいが、内容を判断して選択的に受信文書を印字出力するのには適当でない。

【0008】 本発明の目的は、上記の問題点を解消し、必要な場合にだけ受信モニターレポートを出力でき、かつ受信文書の内容を容易に判断することができるファクシミリ装置を提供することにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決し、目的を達成するための本発明は、次のような特徴を有する。

【0010】「特徴1」 受信文書の枚数がしきい値以上か否かを判断する受信枚数検出手段と、受信文書の枚数が前記しきい値以上のときに、受信画情報の少なくとも一部が含まれた受信モニタレポートの作成指令を出力し、受信文書の枚数が前記しきい値以下のときには受信文書の印字指令を出力する判別手段とを具備した点。

【0011】「特徴2」 前記判別手段が、受信文書が前記しきい値以上のときであって、かつその時の画情報メモリのメモリ残量が残量しきい値より多い場合に、前記受信モニタレポートの作成指令を出力し、メモリ残量が残量しきい値少ない場合には受信文書の印字指令を出力するように構成されている点。

【0012】「特徴3」 前記判別手段が、受信文書が前記しきい値以上のときであって、かつ時間帯が通信量が多いとしてあらかじめ設定されている時間帯以外では前記受信モニタレポートの作成指令を出力し、前記時間帯では受信文書の印字指令を出力するように構成されている点。

【0013】「特徴4」 前記受信モニタレポートに、少なくとも受信文書の識別情報が含まれたバーコードが記録されている点。

【0014】「特徴5」 前記受信モニタレポートの作成指令数を計数する手段を具備し、前記判別手段が、前記作成指令数が予定数に達したときに該作成指令に対応する受信文書の受信モニタレポート一括作成指令を出力するように構成されている点。

【0015】「特徴6」 前記受信モニタレポート上のバーコードに含まれる受信文書の識別情報もしくは操作手段から入力された受信文書の識別情報を検出する手段と、検出された識別情報に対応する受信文書を画情報メモリから読出して印字手段に供給する印字指示手段とを具備した点。

【0016】

【作用】上記特徴1～5を有する本発明によれば、受信文書の枚数が多い場合にのみ受信モニタレポートが印字出力され、オペレータはそれを見て印字の要否を判断できる。したがって、無制限に受信モニタレポートが印字されることがない。そして受信モニタレポートには受信画情報の少なくとも一部を載せるようにしたので、受信文書の印字要否を容易に判断できる。

【0017】また、特徴2または特徴3を有する本発明によれば、メモリ残量が減ってメモリ受信が不能になるのを防止できる。

【0018】また、特徴5を有する本発明によれば、受信モニタレポートが一括して印字されるので、受信のつど受信モニタレポートを受けとって判断したり保管した

りする必要がないので管理が容易になる。また、複数通信分の受信モニタレポートを1枚にまとめて印字することもできるので、記録紙の節約につながる。

【0019】さらに、特徴6を有する本発明によって、前記バーコードもしくはオペレータによって入力された受信文書の識別情報に対応する蓄積文書を印字することができる。

【0020】

【実施例】以下、図面を参照して本発明の実施例を説明する。図2は本発明に係るファクシミリ装置のハード構成を示す要部ブロック図である。同図において、読取部1では送信原稿が読取られ、電気信号すなわち画情報に変換される。読取部1で読取られた画情報や外部から受信した画情報は、画像処理部3で圧縮データに変換されて画情報メモリ2に蓄積される。画像処理部3では、送信画情報の圧縮符号化のほか、受信画情報の複号化も行われる。

【0021】回線制御部4では、G3通信モードおよびG4通信モードによるファクシミリ通信を行うための制御が行われる。回線制御部4は、網制御部5を介して通信回線に接続される。

【0022】操作部6は、オペレータが該ファクシミリ装置に指示を与えるための操作スイッチ類が設けられ、表示部7は、ファクシミリ装置の動作状態を表示するための液晶表示方式等のパネルを含む。ROM8には、該ファクシミリ装置全体を制御するためのプログラムと、回線制御部4や網制御部5を制御するためのプログラムとが格納される。RAM9は、前記プログラムの実行に使用されるワークエリアである。

【0023】システム制御部(CPU)10は、前記ROM8およびRAM9に格納されたプログラムおよび制御データ、ならびに操作部6から入力された指示に従って、ファクシミリ装置全体の制御処理および伝送制御手順処理を実行する。

【0024】印字部11では、前記画情報メモリ2に蓄積された受信文書や、作成された受信モニタレポートが印字される。

【0025】上記のハード構成を有するファクシミリ装置における制御手順の例を、図面を参照して説明する。

【0026】まず図3に示した例では、受信文書の枚数が多いか少ないかによって受信文書を直ちに印字するか受信モニタレポートを出力するかの判断を行うようにしている。

【0027】図3において、ステップS1では受信した画情報を画情報メモリ2に蓄積する。この文書の蓄積の際には文書を区別するための文書番号を管理情報として格納する。ステップS2では、受信が終了したか否かを判断する。受信が終了したならばステップS3に進み、受信枚数が枚数しきい値以上か否かを判断する。この枚数しきい値はあらかじめシステムデータとして設定して

おくことができ、通常の受信状況から判断して適当な枚数を設定するようにする。ここでは、枚数しきい値は10枚とする。

【0028】受信枚数が枚数しきい値つまり10枚を超えていたならば、ステップS4に進んで受信モニタレポートを作成し、印字部11で出力する（ステップS5）。

【0029】この受信モニタレポートには、文書番号と、相手局名、受信日時、通信結果などの通信情報と、受信文書の内容を判別容易にするための受信文書の画情報の一部とが含まれる。この受信モニタレポートに載せる画情報の一部は、受信文書の特定ページ（例えば第1ページ）の縮小情報でもよいし、特定ページの一部分の情報であってもよい。また、後で詳述するように、複数ページの縮小情報であってもよい。

【0030】さらに、文書番号は、人が認識できる情報であってもよいし、バーコードなど機械が読取ることのできる情報であってもよい。

【0031】ステップS3において、受信枚数が枚数しきい値よりも少ないと判断された場合は、ステップS6に進んで受信文書を印字出力する。

【0032】次に、図4に示した手順では、受信枚数が枚数しきい値よりも多い場合であっても、画情報メモリのメモリ残量が少ない場合には、受信文書を直ちに印字するようにした例である。

【0033】図4において、ステップS11～S13およびステップS15～S17は、前記ステップS1～S6と同様であるので説明は省略する。ステップS14では、画情報メモリ2のメモリ残量がメモリしきい値より多いか否かを判断する。メモリ残量がメモリしきい値より多い場合は、ステップS15に進む。一方、メモリ残量がメモリしきい値より少ない場合はステップS17に進む。

【0034】なお、メモリしきい値も、前記枚数しきい値と同様、あらかじめシステムデータとして設定しておくことができる。

【0035】次に、図5に示した手順では、受信枚数が枚数しきい値よりも多い場合であっても、現在時刻が予定の時間帯に含まれている場合には、受信文書を直ちに印字するようにした例である。例えば、前記時間帯として比較的通信量の多い時間帯を設定しておき、この時間帯では受信文書を直ちに印字し、画情報メモリ2を空けてメモリ受信に影響が及ぶことがないようにする。

【0036】図5において、ステップS21～S23およびステップS25～S27は、前記ステップS1～S6と同様であるので説明は省略する。ステップS24では、現在時刻が予定時間帯か否かを判断する。現在時刻が予定時間帯に含まれていない場合はステップS25に進む。一方、現在時刻が予定時間帯に含まれている場合はステップS27に進む。

【0037】前記予定時間帯としては、例えば比較的通信量の多い11時～16時をシステムデータとして設定しておく、なお、この時間帯を実際の装置の稼動状況から判断できるようにして定期的に自動で書き換えるようにしてもよい。稼動状況は通信結果に基づいて容易に判断できる。

【0038】図4または図5に関して説明した実施例によれば、受信文書を印字することによって、その分だけ画情報メモリ2に空きが出るので、その後の受信を確実に行える。

【0039】続いて、前記受信モニタレポートに基づいて受信文書を印字出力する場合のファクシミリ装置の動作を説明する。

【0040】図6において、ステップS51では、受信文書出力指示の有無を判断する。オペレータによるキー操作が行われて出力指示なされると、ステップS51の判断は肯定となってステップS52に進む。ステップS52では、文書番号の入力を促すための指示を出力する。この指示に回答して表示部7は予定のメッセージを表示し、オペレータに文書番号の入力指示を促す。

【0041】ステップS53では、文書番号が入力されたか否かを判断する。文書番号が入力されたならばステップS53の判断は肯定となってステップS54に進む。ステップS54では、入力された文書番号を検索キーとして、画情報メモリ2に蓄積されている受信文書のサーチを行う。

【0042】ステップS55では、検索された受信文書を画情報メモリ2から印字部11に読出して出力する。

【0043】次に、バーコードに含まれる文書番号を検索キーとして受信文書を出力する例を説明する。図7は受信モニタレポートの例を示す図である。同図に示すように、受信モニタレポート12には、文書番号および受信モニタレポートであることを示すバーコード13と、相手局名、受信日時、通信結果などの通信情報14と、受信文書の第1ページの縮小情報15が記録されている。

【0044】図8は、文書番号をバーコードで示した受信モニタレポート12を使って受信文書を出力する際の手順を示すフローチャートである。

【0045】図8において、ステップS61では、ファクシミリ装置に読込まれた画情報が受信モニタレポート12か否かを判断する。この判断は、読込んだ画情報にバーコード13が含まれているか否かによって判断する。なお、この判断を確実にするため、あらかじめバーコード13が記載されている位置をシステムデータとして登録しておき、この位置の近傍の画情報をチェックしてバーコード13の有無を判断するのがよい。

【0046】バーコード13が検出されたならばステップS62に進み、該バーコード13を判読して文書番号を抽出する。バーコード13が検出されなかった場合

は、通常の送信文書だと判断して通常の送信動作を実行する（ステップS63）。

【0047】ステップS64では、前記抽出された文書番号を検索キーとして画情報メモリ2から受信文書を読み出し、印字部11で出力する（ステップS65）。

【0048】なお、前記バーコード13に文書番号だけを記載して、受信モニターレポートであることを示す情報は含ませないようにしてもよい。その場合は、受信モニターレポートを読み込ませるときに、オペレータが操作部6の所定のキーから指示を入力する。

【0049】次に、受信モニターレポートの変形例を説明する。図9は受信モニターレポートの変形例を示す。同図において、受信モニターレポート12には文書番号や通信情報14ほか、受信文書すべてのページの画情報15を縮小して記載してある。ここでは、受信文書が20枚あり、3枚に分けて画情報の縮小ページが記載されている。なお、同図においては、図面の繁雑を避けるため各ページの1枚の画情報にのみ符号15を付加して示している。

【0050】なお、図7に示した受信モニターレポートと同様、文書番号をバーコードで示してもよい。さらに、縮小画情報のそれぞれにページ情報を付加し、受信文書の出力に際しては、前記文書番号と該ページ情報とを検索キーとして受信文書の特定ページのみを印字するようにしてもよい。また、特定のページ情報以前もしくはそれ以降のページを印字出力するようにしてもよい。

【0051】図9に示した受信モニターレポート12の作成手順を図10のフローチャートを参照して説明する。同図において、ステップS71では受信した画情報を画情報メモリ2に蓄積する。この文書の蓄積の際には文書を区別するための文書番号を管理情報として格納する。ステップS72では、受信が終了したか否かを判断する。受信が終了したならばステップS73に進み、受信枚数が枚数しきい値以上か否かを判断する。ここでは、受信モニターレポートの1枚目に6ページ分の縮小画情報を記載可能にしているため、枚数しきい値を6枚として、この枚数以上の文書を受信した場合に受信モニターレポートを印字するようにする。

【0052】受信文書の枚数が枚数しきい値より大きい場合、ステップS74に進む。ステップS74では、受信文書の6枚分の縮小画情報を含む受信モニターレポートの1ページ目を作成し、ステップS75では、この受信モニターレポートを印字出力する。

【0053】ステップS73において、受信枚数が枚数しきい値よりも少ないと判断された場合は、ステップS79に進んで受信文書を印字出力する。

【0054】ステップS76では、受信モニターレポートの第1ページに記載できなかった残りの文書があるか否かを判断する。残りの文書があればステップS77に進んで残りの文書を含む受信モニターレポートを作成し、ス

テップS78で印字する。

【0055】受信文書のすべてについて縮小画情報を出したならばステップS76の判断は否定となり、処理を終える。

【0056】以上は、文書を受信する毎に受信モニターレポートを出力するか否かを判断するようにした例であるが、枚数しきい値以上の文書を受信した回数が予定値に達したところで、その分の受信モニターレポートを一括して出力することもできる。

【0057】受信モニターレポートの一括出力の動作を図11のフローチャートに従って説明する。同図において、ステップS81では受信した画情報を画情報メモリ2に蓄積する。この文書の蓄積の際には文書を区別するための文書番号を管理情報として格納する。ステップS82では、受信が終了したか否かを判断する。受信が終了したならばステップS83に進み、受信枚数が枚数しきい値以上か否かを判断する。この枚数しきい値はあらかじめシステムデータとして設定しておくことができ、通常の受信状況から判断して適当な枚数を設定するようにする。ここでは、枚数しきい値は10枚とする。

【0058】受信枚数が枚数しきい値つまり10枚に達していたならば、ステップS84に進んでカウント値をインクリメントする。受信枚数が10枚に達していないならば、ステップS88に進んで受信文書を印字出力する。

【0059】ステップS85では前記カウント値が予定値に達したか否かを判断する。カウント値が予定値に達していたならばステップS86に進み、複数の受信文書の受信モニターレポートを一括して作成し、印字する。ステップS87では、前記カウント値をクリアにする。

【0060】なお、前記一括した受信モニターレポートは、各受信単位で別々の用紙としてもよいし、1枚の用紙に複数通信分の通信情報や縮小画情報を記載するようにしてもよい。

【0061】次に、図1のブロック図を参照して本実施例のファクシミリ装置の要部機能を説明する。同図において図2と同符号は同一または同等部分を示す。

【0062】画情報メモリ2には、読取部1で読取られた画情報と、網制御部5および回線制御部4を介して受信した画情報とが蓄積される。管理部16には画情報メモリ2に蓄積された画情報の管理情報すなわち文書番号や受信データ量ならびに通信結果情報などが格納される。

【0063】受信枚数検出部17では、受信が終了する毎に受信枚数を検出してその検出結果を判別部18に供給する。判別部18は供給された受信枚数情報をシステムデータの枚数しきい値と比較し、その結果によって、受信モニターレポートの作成指示信号s1を出力するか、受信文書の印字指示信号s2を出力する。

【0064】モニターレポート作成部19は、前記作成指

示信号s 1に応答して画情報メモリ2から画情報の一部または全部を読出し、かつ管理部16から通信結果情報や文書番号などを読出し、これらイメージデータとキャラクタデータとを予定のフォーマットに従って合成し、印字部11に出力する。

【0065】前記判別部18は、受信枚数に加えて、メモリ残量検出部20からのメモリ残量情報や時計装置21からの時刻情報に基づいて受信文書を出力させるか、受信モニタレポートを出力させるかの判別を行うようにもできる(図4、図5参照)。

【0066】また、受信モニタレポートを一括出力する場合のために受信回数検出部22を設けることもできる。すなわち、受信回数検出部22から受信回数が予定値になったときに出力される信号s 3が入力されるまでは、前記信号s 1を出力しないように判別部18を構成する。受信回数検出部22は、判別部18で受信モニタレポートを出力すると判断された場合に、カウント値がインクリメントするように構成され、そのカウント値が予定値に達したときに信号s 3を出力する。

【0067】そして、信号s 3に応答して信号s 1が供給されたときには、モニタレポート作成部19は複数通信分の受信モニタレポートを一括して作成するように構成する。

【0068】前記受信モニタレポートは読取部1で読取られると、受信文書の出力指示シートとしても使用される。バーコード判読部23は、画情報メモリ2に蓄積された受信モニタレポートの画情報からバーコードを識別し、そのバーコードデータを文書番号検出部24に供給する。文書番号検出部24はバーコードデータから検出した文書番号を画情報メモリ2に出力し、画情報メモリ2はこの文書番号に対応した受信文書を印字部11に出力する。

【0069】また、前記文書番号は、オペレータの手によって指示するようにもできる。すなわち、文書番号検出部24を、操作部6から入力された文書番号を画情報メモリ2に出力するように構成すればよい。

【0070】以上の説明のように、本実施例では、受信文書の枚数が多い場合に受信モニタレポートを出力して、受信文書を印字するか否かをオペレータが判断するようにした。

【0071】なお、受信モニタレポートによって、受信文書が不要なものであった場合に、オペレータが、あらかじめ定められた操作部6の消去キーを操作することによって不要な受信文書を削除できるようにするのが望ましい。

【0072】また、複数通信分の受信モニタレポートが一括して出力された場合で、不要な文書が複数あった場合には、必要な文書を印字させた後、該受信モニタレポートに関するすべての文書を自動的に消去できるように設定することもできる。

### 【0073】

【発明の効果】以上の説明から明らかなように、本発明によれば、次のような効果が得られる。

(1) 請求項1～3に記載の発明では、受信枚数が少ない場合には受信モニタレポートは出力されないの、少ない受信文書に対して受信モニタレポートが出力されるむだを排除でき、かつ必要な場合、つまり受信文書が多い場合には、受信モニタレポートによって受信文書の出力可否を判断できる。

(2) 請求項2に記載された発明によれば、メモリ残量に余裕がある場合にのみ受信モニタレポートを出力し、オペレータによる受信文書出力指示の判断を待つことができるので、メモリフルのためにメモリ受信が不能になるのを回避できる。

(3) 請求項3に記載された発明によれば、通信量が多いとしてあらかじめ設定されている時間帯以外でのみ、受信モニタレポートを出力して、オペレータによる受信文書出力指示の判断を待つことができるので、通信量が多いとされる時間帯に余計に蓄積される文書を減らすことができ、メモリフルによってメモリ受信が不能になるのを回避できる。

(4) 請求項4に記載された発明によれば、前記受信モニタレポートに、少なくとも受信文書の識別情報が含まれたバーコードが記録されるので、バーコード判別手段を有するファクシミリ装置によってこのバーコードを読み取らせることにより、受信文書を出力させることができる。したがって、文書番号の入力の手間を省くことができるし、出力させる文書も容易に選択することができる。

(5) 請求項5に記載された発明によれば、枚数の多い文書を受信する毎に受信モニタレポートが出力されるのを避けて、一括管理を容易にすることができる。

(6) 請求項6に記載された発明によれば、受信モニタレポート上のバーコードに含まれる受信文書の識別情報もしくは操作手段から入力された受信文書の識別情報に従い、蓄積文書を検出して印字手段に供給することができる。

### 【図面の簡単な説明】

【図1】 ファクシミリ装置の要部機能を示すブロック図である。

【図2】 ファクシミリ装置のハード構成を示すブロック図である。

【図3】 受信モニタレポート出力判別のための手順を示すフローチャートである。

【図4】 受信モニタレポート出力判別のための手順の変形例を示すフローチャートである。

【図5】 受信モニタレポート出力判別のための手順の他の変形例を示すフローチャートである。

【図6】 受信文書出力のための手順を示すフローチャートである。



【図7】 受信モニターレポートの一例を示す図である。

【図8】 受信文書出力のための手順の変形例を示すフローチャートである。

【図9】 全ページの画情報を含む受信モニターレポートの例を示す図である。

【図10】 全ページの画情報を含む受信モニターレポートの出力手順を示すフローチャートである。

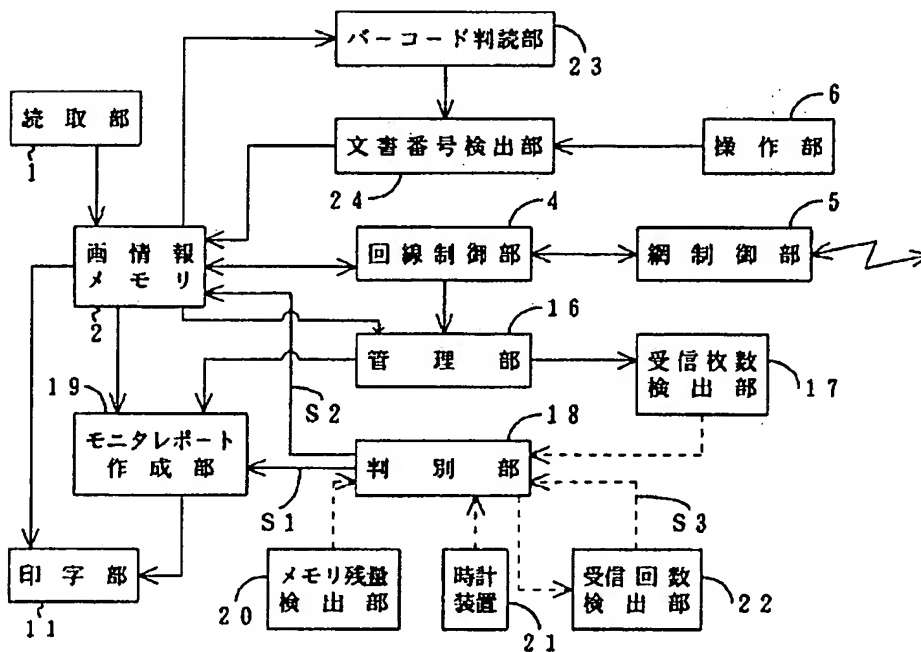
【図11】 受信モニターレポートの一括出力の手順を示

すフローチャートである。

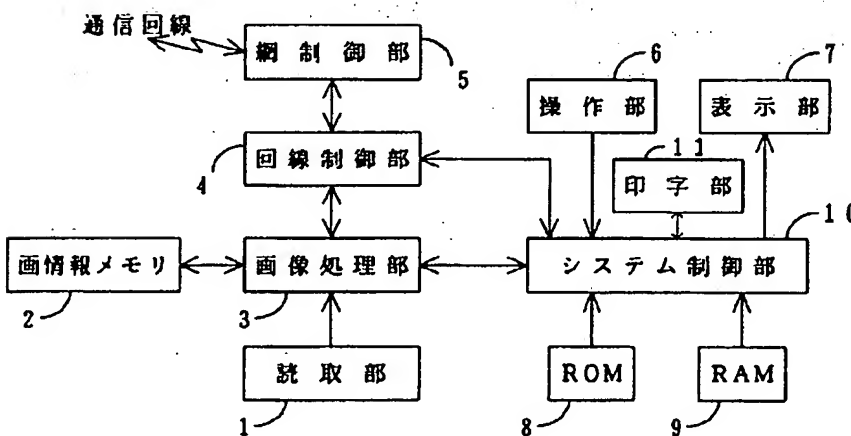
【符号の説明】

1…読取部、 2…画情報メモリ、 4…通信制御部、  
6…操作部、 7…表示部、 11…印字部、 18  
…判別部、 19…モニターレポート作成部、 20…メ  
モリ残量検出部、 21…時計装置、 22…受信回数  
検出部、 23…バーコード判読部、 24…文書番号  
検出部

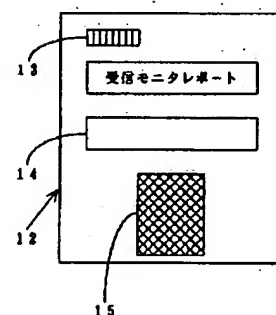
【図1】



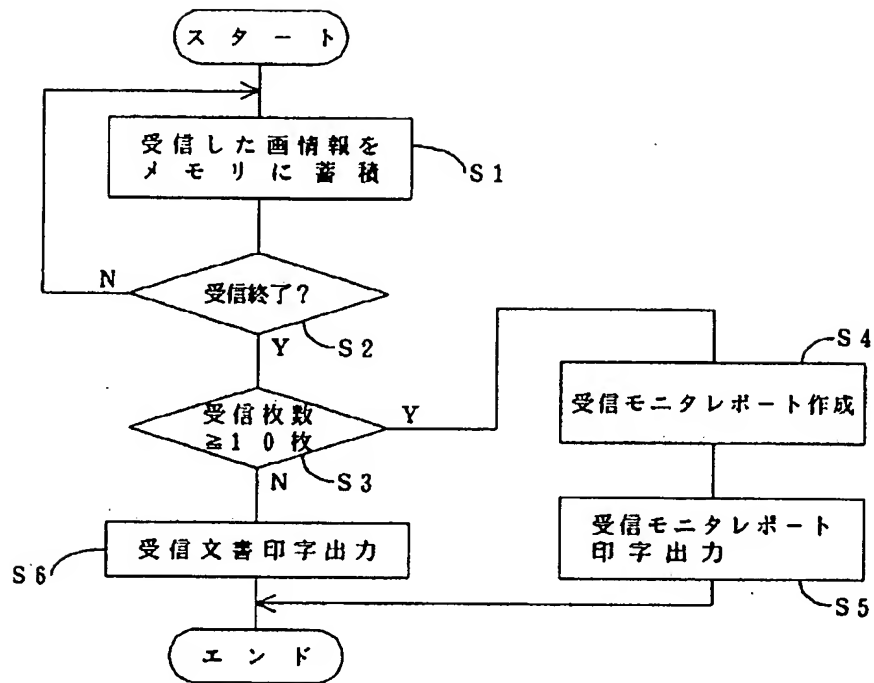
【図2】



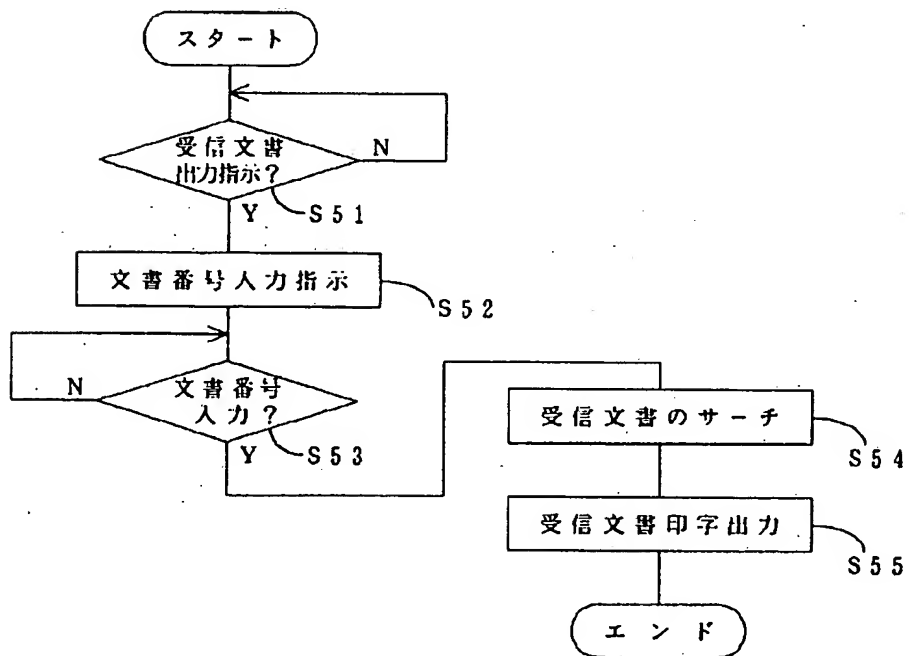
【図7】



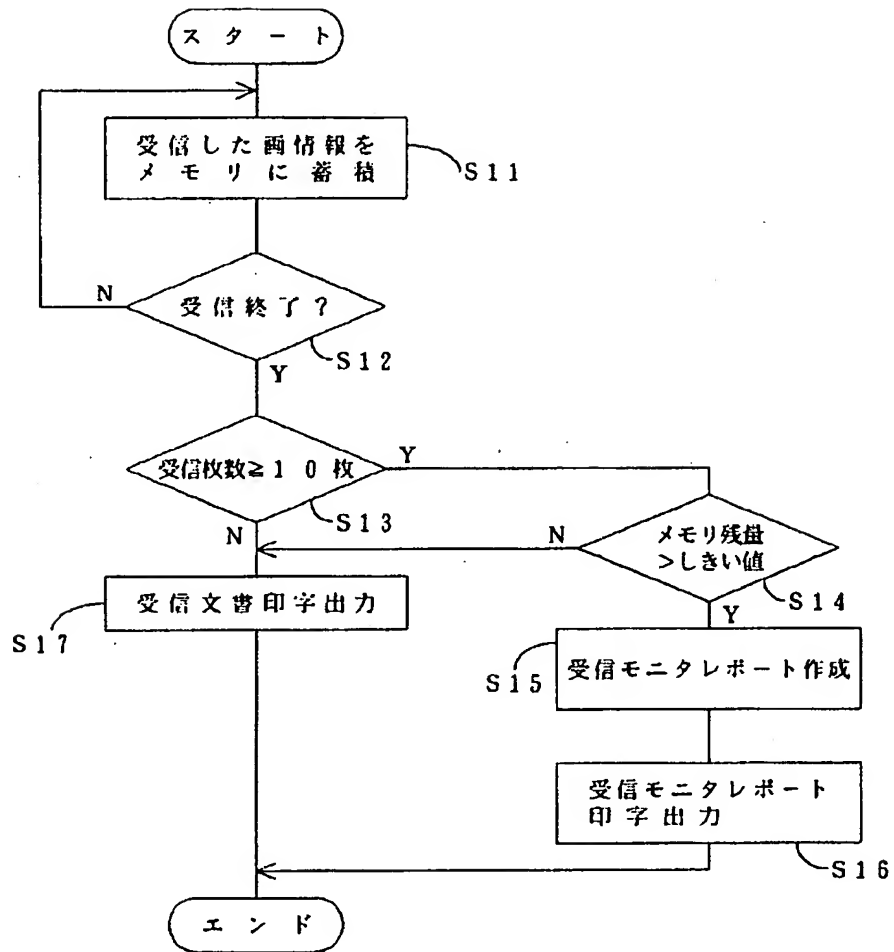
【図3】



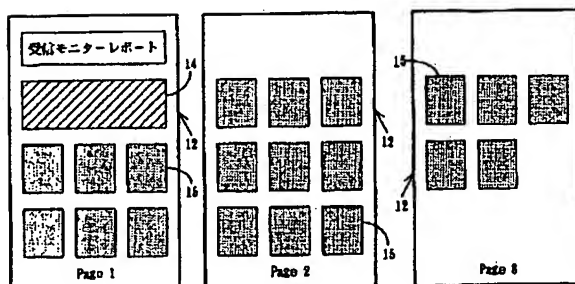
【図6】



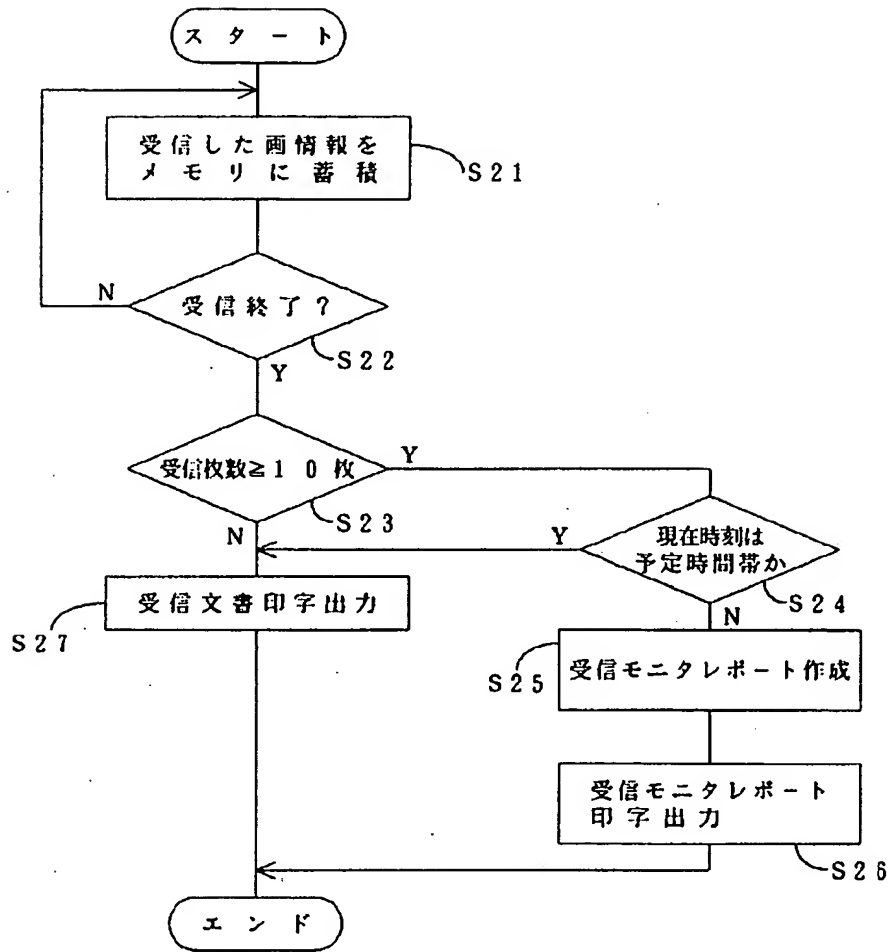
【図4】



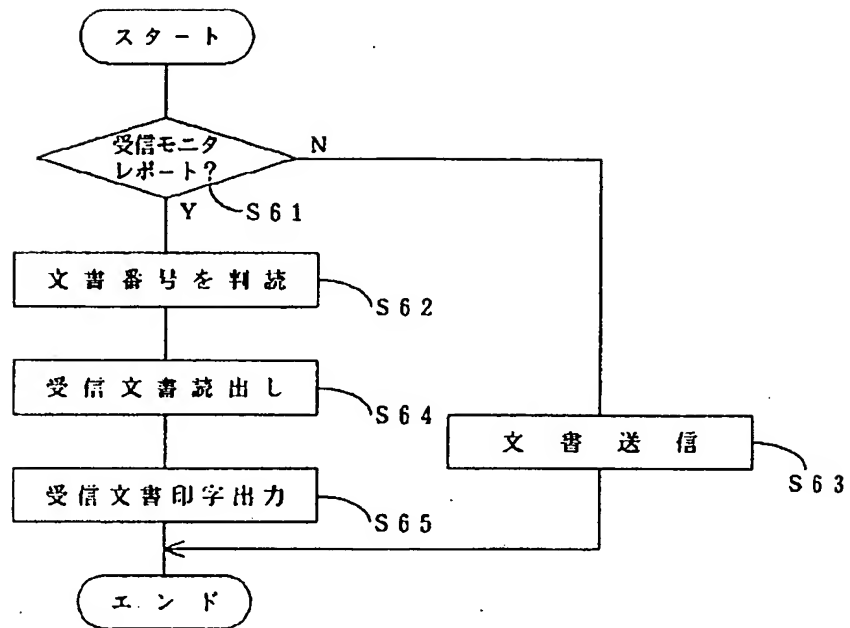
【図9】



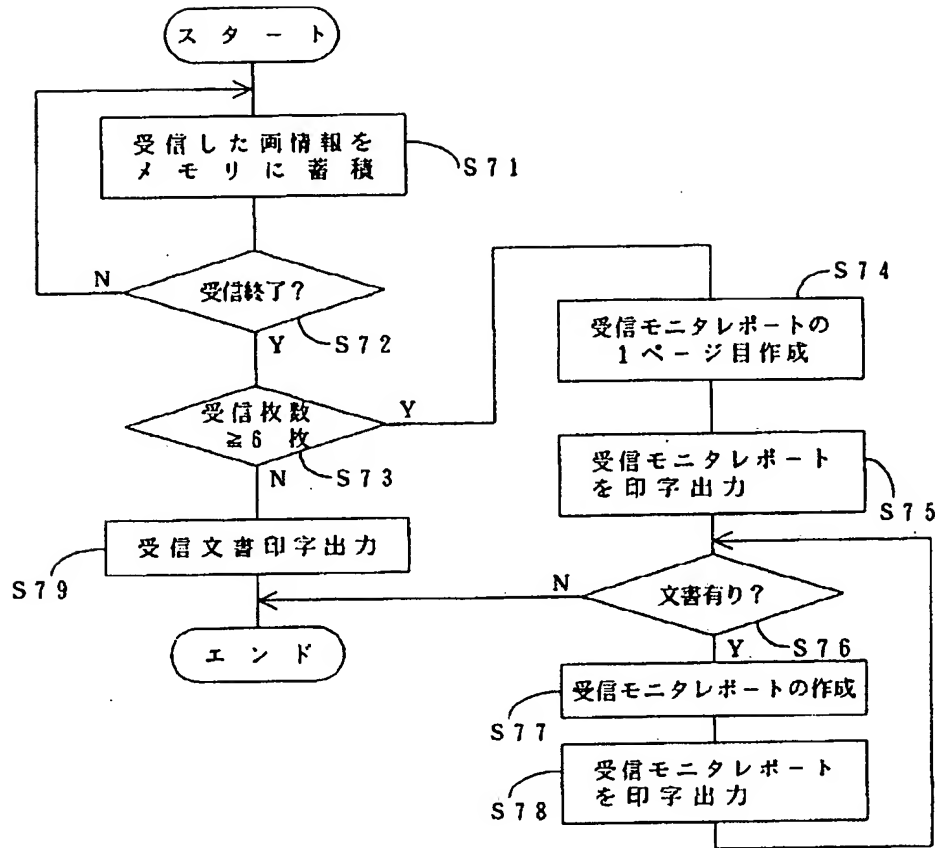
【図5】



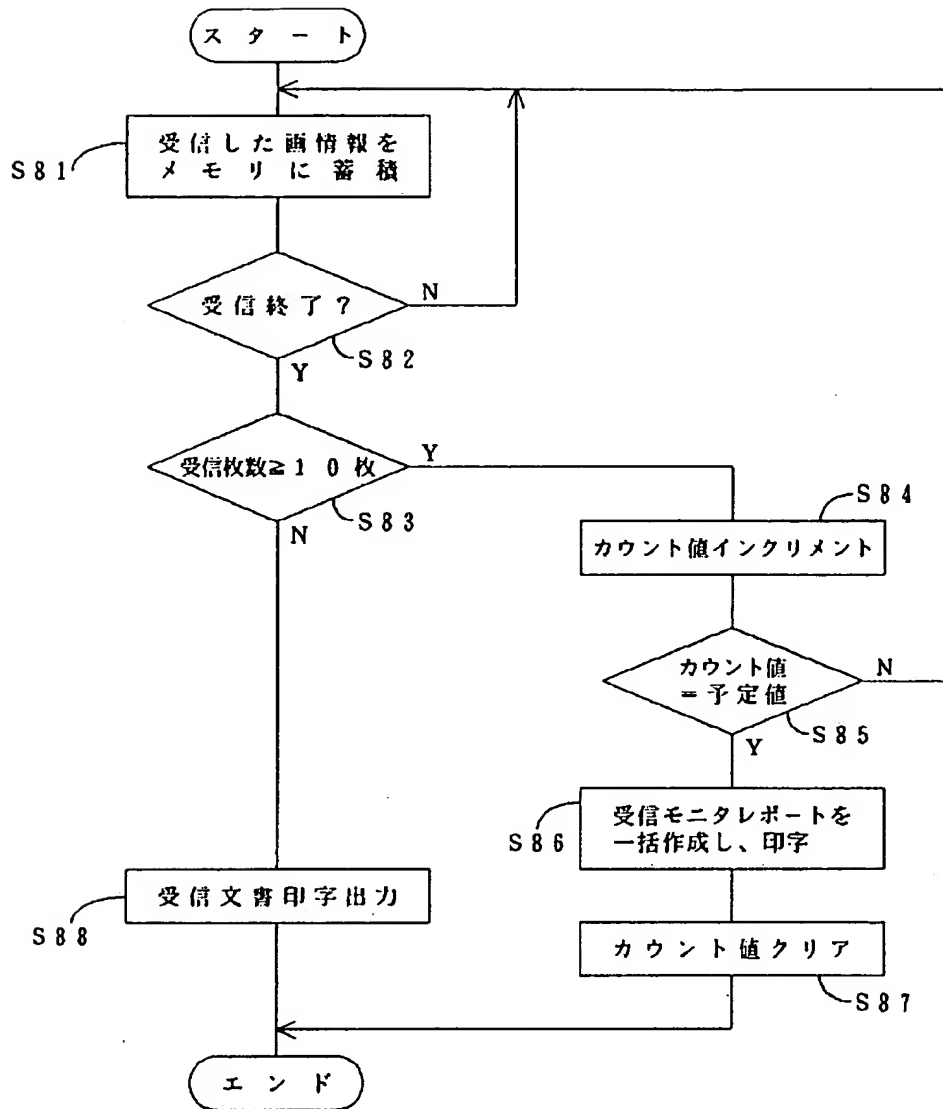
【図8】



【図10】



【図11】



フロントページの続き

(72)発明者 齋藤 一孝  
埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士ゼ  
ロックス株式会社内

(72)発明者 吉田 稔  
埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士ゼ  
ロックス株式会社内